

クマ被害への対応に自衛隊が出動しました

全国山村振興連盟常務理事兼事務局長 實重重実

昨年はクマによる人身被害が多発し、山村において深刻な問題となりました。環境省の発表によると、昨年4月から11月までの人的被害は230人に上り、このうち痛ましい犠牲者の数が過去最多の13人となりました。この間のクマの出没件数は3万6814件、捕獲数は9867頭に上りました。被害を受けられた方々にお見舞い申し上げるとともに、犠牲者のご冥福をお祈りします。

全国山村振興連盟では、昨年11月20日の通常総会で決定した「令和8年度山村振興関連予算・施策に関する要望書」の中で、2項目にわたってクマ被害対策を訴えています。この中で「防衛省・自衛隊はクマ等による被害の深刻さの度合いにより、自衛隊の派遣、自衛隊員による害獣駆除への協力を検討すること」を要請していますが、これはクマ被害の深刻化を受けて、令和6年に、以前からの表現を強化して、現在の表現としたものでした。連盟として要請活動を強めた結果、農林水産省鳥獣対策・農村環境課長が、何度も防衛省に足を運んで協議をしていただいていたいました。

昨年11月5日、防衛省はクマ被害が多発する秋田県知事の要望を受けて、陸上自衛隊を派遣しました。一定の場合に自治体の業務を受託できるとの自衛隊法の規定に基づいて、捕獲の支援に当たったものです。この日、秋田県駐屯地に拠点を置く第21普通科連隊が、午後から鹿角市で猟友会メンバーとともに箱罠1つを6km先まで移動させる作業に当たりました。自衛隊員は15人でクマの攻撃から身を守るため防弾チョッキを着用し、銃器による駆除は実施しないという方針ですが、自衛隊に出動いただいたことは大変ありがたいと思います。

クマによる人身被害が相次いだ現状を踏まえて、緊急銃猟についての人材育成、国・自治体の連携強化、個体数の減少などにつき当連盟として要請してきたところですが、環境省では補正予算と通常予算を合わせ、過去最大規模の96億円が計上されているところです。今後とも、クマ等野生鳥獣による人身被害の防止が徹底されるよう、当連盟として政府・国会に強く働きかけていきたいと考えています。